

■公益社団法人設立記念号出版にあたり

平素は当協会に対しまして格別のご高配を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

公益社団法人設立記念号出版あたり一言ご挨拶を申し上げます。

当会は、会員・賛助会員の皆様の御協力と、千葉県をはじめとする県内建築関連団体の皆様のお蔭をもちまして平成26年4月1日より公益社団法人として再出発しました。

公益社団法人への移行は平成20年の第36回通常総会において決議承認され、新公益法人移行特別委員会を設立しスタートしました。

昨年7月には答申が出され、今年4月1日付で公益社団法人の登記が終わりましたことをご報告いたしますとともに、まずは関係各位にお礼申し上げます。

本当に有り難うございました。今後は公益社団法人千葉県建築士事務所協会として恥ずかしくない、協会運営・事業展開を心がけてまいりたいと思います。

折しも、昨年は東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、2020年に56年ぶりの東京大会が開催されます。民間の試算によるとオリンピックの経済効果は20兆円、雇用創出は約120万人とも言われております。

1964年に開催された東京オリンピック当時に比べると社会資本整備が進んだ現在は、あのころのような経済効果は期待出来ないといわれていますが、東京湾岸地区の経済効果は大きいものがあります。

一方、千葉県内での競技開催が今のところほとんどないことから経済波及効果は観光産業や交通・雇用など限定的なものになってしまうのではないのでしょうか。

1964年に開催された東京オリンピックのような活気あふれる感動的な競技シーンや国際都市としての成熟した都市東京を世界にアピールし、また日本の物づくりの素晴らしさを世界の人々に見て頂きたいと思います。

さて、2020年以降の建築設計業界を取り巻く環境は不透明ですが、千葉県建築士事務所協会は公益社団法人としての初年度から公益性のある事業を一つでも多く着実に実行成功させていかななくてはならないと考えます。

県民の生命財産を守り安全・安心で良好な住生活が送れるよう、千葉県建築士事務所の英知を集め、公益目的事業と協会の運営を行っていくことがこれからの当会の繁栄に がり、また会員の皆様のためにもなって行くことと思います。

公益社団法人への移行の年に会長に就任したということを重ね受け止め、中長期的な視野に立って新たな事業展開をして行かなければならないと考えております。

会員の皆様・諸先輩方、そして建築関係団体の協力の下、全会員が一丸となって努力を惜しまず頑張れる環境と成果を出せる協会運営を心掛ける事が大切であると思えます。

本年度も、千葉県建築士事務所協会のさらなる会勢拡大、社会的地位の向上を目指して、会員の皆様と共に前進してまいりたいと思います。引き続きのご支援とご協力を心よりお願いいたしましてご挨拶といたします。

平成26年10月吉日

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会
会 長 鈴 木 兼 次

